

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX:0595 (21) 8839

E-Mail:iga-ken@iga.ed.jp

研修講座 B-I「特別支援教育3回連続講座②」を実施しました！ 「WISC-V 検査結果から見立て、支援に活かす -検査結果の読み取りから、通常級・通級・特別支援級での支援へ-」 【講師】伊賀市こどもの育ち支援課発達支援係 心理検査員 石井 浩さん

7月30日(木)に「特別支援教育3回連続講座②」の研修講座を行いました。演題にもある通り、今回はWISC-Vの検査結果を「どう読み解いて、どう活かすか」を軸としてご講義をいただきました。講師の石井さんは「IQだけで先走ってはいけない。本人の状況や特性を大切にすること。1つのアセスメントツールがWISCである」と話されました。検査を実施する本当の目的は「子どもを変えるためではなく、大人の関わり方を変えるためのヒント」であるという言葉が大切な視点だと感じました。その後、石井さんから具体的な数値や子どもの様子が書かれた架空の資料をもとに、受講者自身が読み取り、とらえたことを持ち寄って、くり返しグループワークに取り組みました。受講者のアンケートにも「先生方の意見や見方を知れて、新しい気づきがあった」という感想が寄せられました。石井さんは「キーワードは『子どもの安心・安全』」とお話しになりました。



「弱い力を特訓するのではなく、周囲の環境を調整することが基本」であり、教職員が「ちょっとした工夫」をすることで「『ちょっと工夫してもらったらできた』という子どものメタ認知につながる」とご教示いただきました。「自分で決めて自分で取り組み、自分でやれた」という感覚が「将来の自立につながる」ことを念頭に置きながら、支援の手立てを考える大切さも教えていただきました。

ご参加いただいた先生方には今後の実践に活かしていただくとともに、各校で還流いただきますようお願いいたします。

アンケートより【一部抜粋】

・グループワークで子どもの姿を思い浮かべ、WISC-Vの結果から読み取ったり支援を考えたりでき、検査結果や所見を再度見直して、子ども理解につなげていきたいと思いました。弱みを訓練するのではなく「強みを生かした支援」をすることをくり返し教えていただいたので、一人ひとりの強みにも目を向けて支援に活かしていきます。【小】

・数値の見方だけでなく、生徒が見せている様子と結びつけて考えてみる視点を、改めて知ることができました。またそこから個別の指導計画を組み立て、実際の授業の場面でできることを考えるポイントも、例でとてもわかりやすく教えていただき、気づくことができました。検査から学校・家庭がどう動くかまでイメージすることができたと感じています。【中】

・WISC-Vの検査から読み取れるアセスメントの視点がたくさんありました。また検査はわかる部分とそうではない部分というものもあり、それだけで全てを評価してはいけないことも、改めて認識しました。今回の学びを地域支援での活用に活かしていけるようにしていきたいです。【特別支援学校】